

令和7年度 事業報告

1 事業の概要

人材を「資本」として捉え、その価値を最大限に引き出す「人的資本経営」が企業成長の重要なキーワードとして注目された一方で、中小企業では少子高齢化にともなう人手不足の深刻化が懸念された。また、働き方改革や勤労者の意識の変化も相まって、労働市場の多様化が一層進んだ。

こうしたなか、当協会では、中小企業に従事する勤労者やその家族の福祉向上と中小企業の活力増進を目指し、デジタル技術等を活用した多様な働き方の促進、誰もが働きやすい職場づくりの推進、分散型・体験型のツーリズムやワーケーションを含めたCSR活動の活性化、勤労者のニーズを踏まえた福利厚生提供等に注力しつつ、国・県・市町の施策や労使団体等との緊密な連携のもと、「ワーク・ライフ・バランス（WLB）の促進」、「勤労者等の文化・スポーツ・レクリエーション活動の推進」、「勤労者の福利厚生の充実」、「労働・勤労者福祉の情報提供」の4本柱を掲げ、総合的に事業を推進した。

(1) ワーク・ライフ・バランス(WLB)の促進

企業や団体が組織力を強化し、働き方改革や新たなワークスタイルの導入を進め、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた活動に幅広く取り組むことにより、より多くの健康長寿企業を生み出せるよう、政労使三者合意に基づく取組の集積と成果を活かし、ひょうご仕事と生活センターにおいて、普及啓発、相談・実践支援、研修の企画・実施、中小企業への助成、調査・研究を柱として積極的な支援を展開した。

(2) 勤労者等の文化・スポーツ・レクリエーション活動の推進

勤労者やその家族をはじめとする県民の文化・スポーツ・レクリエーション活動と地域活性化を促進するため、兵庫県等からの指定管理を受け、兵庫県中央労働センター、姫路労働会館及び但馬ドームの施設管理運営を行った。各施設ではギャラリー展やスポーツ教室等の企画事業を実施して利用の促進に努めた。

(3) 勤労者の福利厚生の充実

中小企業従業員の福祉向上と企業の安定した労働力の確保・定着を図るため、「中小企業従業員共済制度」において多彩な福利厚生サービスを提供するとともに、非正規雇用労働者を含む加入促進を図った。勤労者福祉基金を活用し、教育資金融資や勤労者福祉活動に対する助成を行った。

(4) 労働・勤労者福祉の情報提供

県内有数の労働関係図書資料を有するひょうご労働図書館の運営や、雇用労働問題をテーマとした講演会を通じて労働・勤労者福祉に関する情報提供を行った。

2 ワーク・ライフ・バランス(WLB)の促進（公益目的事業）

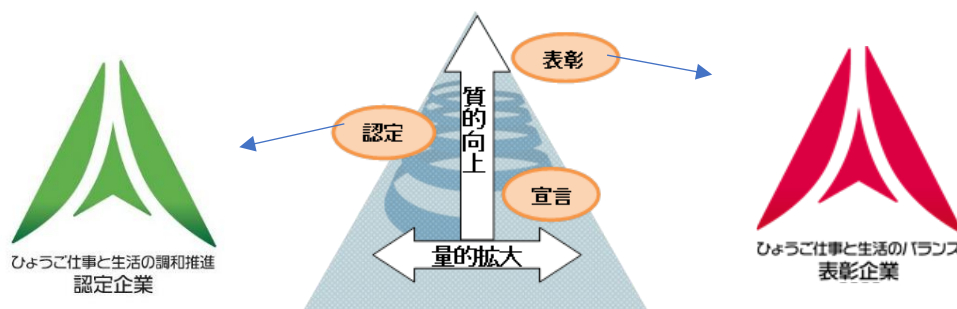
<重点業務取組>

- ① 3拠点（神戸、阪神、姫路）の機動力を生かし、宣言企業を戦略的に開拓
- ② 「質的向上」により重点をおいた取組を推進し、認定・表彰企業にステップアップ
- ③ 企業への情報発信に加え、新たな働き手となる学生をはじめ県民に向けた広報の強化
- ④ 自己診断システムを活用し、多様で柔軟な新しいワークスタイルの実現を支援
- ⑤ 女性活躍やSDGs、働き方改革支援等に係る関係機関との連携強化

<県内企業でのWLBの取組実績>

年 度	H21～R3	R4	R5	R6	R7	累 計	R7目標
宣言企業数(内外に取組を宣言)	3,107※	277	311	300	249	4,244	300
認定企業数(取組が一定水準超)	365※	72	73	62	44	616	60
表彰企業数(先進・模範的取組)	139	13	15	15	6	188	—

※宣言企業：H25から開始、認定企業：H26から開始



※令和元年度にロゴマークを新たに作成。認定企業がフレッシュグリーン、表彰企業がワインレッド

<主な事業の実績>

(1) 推進体制

神戸、阪神、姫路の3か所の事務所を拠点に、国や県の表彰・認定企業等のリストアップを行い、機動力を生かした積極的な企業訪問により、宣言企業を戦略的に発掘するとともに、それぞれの企業の状況や課題に応じたきめ細かなサポートを行った。

(2) 普及啓発・情報発信

情報誌やホームページ等により、先進事例やセミナー情報、各種助成金等の情報を提供したほか、企業・団体、県民を対象とした普及啓発イベントとして、WLB推進月間にはWLBフェスタを開催した。

また、セキュリティ強化のためのサーバー更新に合わせて、ホームページのトップページをリニューアルした。

① WLBフェスタ2025「不妊治療と仕事の両立支援フォーラム」の開催

- ・開催日：令和7年12月1日
- ・会場：兵庫県中央労働センター大ホール（162人参加）
- ・内容：表彰式等（ひょうご仕事と生活バランス表彰企業※、WLBキャッチフレーズ受賞者、キーパーソン養成講座修了者）

基調講演「日本企業におけるダイバーシティ推進の現状と課題」

庭本 佳子氏（神戸大学大学院経営学研究科 准教授）

パネルディスカッション「不妊治療と仕事の両立支援の取組」

ファシリテーター：庭本 佳子氏

不妊・不育症当事者団体：NPO法人Fine 理事長 野曽原 誉枝氏

企業：アスカカンパニー株式会社 門脇 弘朋氏

※ひょうご仕事と生活バランス表彰企業

認定企業のうち先進的・模範的取組で顕著な成果を上げた企業・団体6社

- ・コベルコソフトサービス株式会社
- ・社会福祉法人三翠会
- ・株式会社システムリサーチ
- ・株式会社千石
- ・兵庫南農業協同組合
- ・株式会社山本電機製作所(50音順)



② WLB推進キャンペーンの実施

県民からWLBキャッチフレーズを募集(応募作品2,513作品(一般の部619作品、学生の部1,894作品))し、入賞作品をカレンダーや情報誌に掲載等を行った。

年度	R3	R4	R5	R6	R7	備考
企業向け情報誌	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000	発行部数(年4回発行)
学生向け事例集	21,000	20,000	20,000	3,000	4,000	発行部数(年1回発行)
WLBフェスタ	205	137	143	175	162	参加者数
ポータルサイト運営	82,308	58,141	63,091	72,119	81,562	アクセス数

(3) 相談・実践支援

企業等の組織内でWLBを効果的に推進するための相談を受け付け、課題に応じた適切な専門家を派遣するとともに、実践支援や研修情報の提供等を行った。

① コーディネーター・コンサルタント・外部専門家の派遣

企業等にセンターのコーディネーター、コンサルタントを派遣し、WLBの実現に

向けて最適な取組方法等を提案した。

企業ニーズに応じて、センター登録の外部専門家(社会保険労務士、中小企業診断士、キャリアカウンセラー等)を企業に派遣し、経営陣や担当者に対して具体的な助言を行った。

② テレワーク・ICTの推進

多様で柔軟な新しいワークスタイルの実現を図るため、ICTアドバイザーを配置し、企業におけるテレワークやオンライン会議等の導入を総合的に支援した。

また、WLB推進のためのICT・DX推進業務の一部を民間委託し、企業訪問やセミナーを開催した。

- ・ICT・DXアドバイザー対応件数：84件
- ・DXセミナー：第1回（10月6日 尼崎商工会議所 参加者18名）
第2回（12月18日 姫路労働会館 参加者33名）
第3回（2月19日 中央労働センター視聴覚室 参加者44名）

③ 不妊治療と仕事の両立支援

企業の管理職や従業員に対する必要な知識の普及啓発を行うとともに、企業に、専門家や当事者団体をつなぐ相談体制を構築し、当事者による適切な助言や従業員向けの研修等、伴走型支援を実施した。

- ・企業訪問時の広報チラシによる啓発：246件

年 度	R3	R4	R5	R6	R7	備 考
コーディネーター等派遣	2,103	1,961	2,235	2,145	2,155	R7目標件数2,000

(4) 研修企画・実施

各企業の課題に沿った研修のほか、組織内で中核的役割を担う人材を対象とした講座、WLBの取組が進んだ企業を対象とした勉強会、神戸・尼崎・姫路での地域セミナーなど、多様な研修を企画・実施した。

① 企業等の課題に沿った研修の企画・実施

「仕事と育児・介護との両立支援」「生産性を上げるワザ」、「職場環境改善とメンタルヘルス予防対策」、「タイムマネジメント」等をテーマに、小規模事業者等を対象とした集合型の合同研修や個別企業等を訪問して行う出前型の研修を実施した。

② キーパーソン養成講座

WLBを効率的に進めるためのアクションプランの作成など、企業や団体自らが主体となってWLBの実現推進活動を実行するため、その中核的役割を担うキーパーソン養成を目的とした4回の連続講座を開催した。また、これまでの参加者に交流の場を設けることで取組の継続意欲を高めるため、フォローアップ研修を開催した。



③ 認定・表彰企業学びの会

認定・表彰を受けた企業・団体を対象に、WLB実現に向けた具体的な課題を解決するための考え方を学び、改善策を立案するための勉強会を年2回開催し、相互の学びの場や交流会などを通じてネットワークづくりを進めるなど、企業の自主的な取組への支援を行った。

④ WLB地域セミナーの開催

神戸、阪神、中播磨の各県民局・県民センターや経営者団体・労働組合等と共催で、それぞれの地域課題に対応したテーマを取上げてセミナーを開催した。

【WLB地域セミナー】

地 域	開催日／会場	内 容	参加者数
神 戸	10月29日 兵庫県私学会館	講演「若手を育て活かす上司力® ～若手が成長実感できる職場の創り方～」 (株)FeelWorks 代表取締役 前川 孝雄氏	122
阪 神	11月5日 尼崎商工会議所	講演「人材確保と地元企業の戦略的な取組」 イントロダクション、統括：武庫川女子大学准教授 山下 紗矢佳氏 企業事例発表、トークセッション	113
中播磨	10月16日 姫路商工会議所	講演「多様性推進の現状と自律的キャリア形成」 (株)ダイフク 社外取締役 神崎 有紀氏	65

年 度	R3	R4	R5	R6	R7	備 考
従業員向け研修	197	216	229	245	263	R7目標件数200
キーパーソン養成講座	18	21	17	16	14	修了者数
認定・表彰企業勉強会	49	33	62	53	38	参加者数

⑤ WLB表彰企業を集めた企業研究フェアの開催（共催）

WLBの取組で優れた成果を上げている表彰企業を集めた企業研究フェアを全学年の学生を対象に対面とオンラインのハイブリッド形式で開催し、参加企業の取組紹介を行った。

- ・ 開催日：1月17日
- ・ 参加企業数：40社(対面13社) ・参加学生数：100人(対面54人)

(5) 中小企業への助成

育児・介護による休業制度及び短時間勤務制度の利用促進や女性や高齢者が働きやすい職場環境の整備促進、テレワーク導入支援のため、3種類の助成金の活用により中小企業の多様な働き方の推進に取り組んだ。

① 多様な働き方推進支援助成金

ア 育児・介護代替要員確保助成コース

中小企業等の従業員の育児や介護休業の取得を促進し、休業者が職場復帰しやすい職場環境の整備を図るため、休業者・短時間勤務者の代替要員にかかる賃金の一部を助成した。

〔対 象〕 従業員の育児・介護休業、又は育児・介護による短時間勤務に対し、代替要員を新たに雇用した中小企業の事業主

〔支給額〕 休業型：代替要員の賃金の1/2(月額上限10万円、総額上限100万円)

短時間勤務型：短時間勤務の代替要員の賃金の1/2

(育児の場合：月額上限2万5千円、小学3年生まで

(総額上限なし))

(介護の場合：月額上限10万円、総額上限100万円)

イ 働き方改革助成コース

a 環境整備型

年齢や性別にかかわらず様々な人材の就労や職域拡大、多様で柔軟な働き方の推進などWLB促進に必要な職場環境の整備を行った中小企業事業主に対し助成した。

〔対象事業〕

- ・職域拡大など多様な人材活用：女性(男性)専用やLGBTQに配慮したオールジェンダートイレ・更衣室等の整備

- ・コミュニケーションの活性化に必要な職場環境整備：休憩室の整備

〔支給額〕 対象経費の1/2以内(上限200万円)

b テレワーク導入型

育児・介護等と仕事の両立や多様で柔軟な働き方を推進するため、テレワーク環境の整備を行う中小企業事業主に対して助成した。

〔対象事業〕 パソコン・タブレット等のリース料、コワーキングスペース等の借上料、人事・労務管理ソフトの導入(R7～追加)

〔支給額〕 対象経費の1/2以内(上限200万円)

※ a 環境整備型、b テレワーク導入型と合わせて同一年度2件以内の申請かつ上限200万円

(単位:件)

区 分	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R7目標
育児・介護代替要員確保助成コース	93	83	84	100	106	100	105	100
働き方改革助成コース	23	148	178	131	126	33	29	36
環境整備型	23	42	52	31	38	33	28	30
テレワーク導入型	-	106	126	100	88	0	1	6

(6) 調査・研究

大学と共同して、WLBに関する調査・研究を進めたほか、働きやすい職場環境を目指す企業の従業員意識調査を実施した。

① 兵庫県立大学との共同研究

兵庫県立大学国際商経学部と共同で、WLBに関する調査研究をするため、学生が企業訪問により経営者層へのヒアリング調査や従業員へのアンケート調査等を行い、新たな視点での課題の洗い出しを検討し、企業の取組支援につなげた。

- ・対象企業 3社（製造業、介護福祉業、建設業）
- ・参加学生 24人



② 従業員意識調査の実施

従業員に対する意識調査を実施することにより、従業員の満足度を定量的に捉え、WLB実現の促進要因や阻害要因を分析し、調査対象企業が今後取り組むべき課題や改善策等の提案に生かした。

年 度	R3	R4	R5	R6	R7	備 考
県立大共同研究報告会	3	5	5	5	5	研修会含む回数
従業員意識調査	67	57	71	73	56	実施企業数

③ WLBの取組に関するアンケート調査の実施（隔年実施）

宣言・認定・表彰企業に対し、WLBの取組状況、取組前と宣言・認定・表彰後の変化等についてアンケート調査を実施した。

- ・調査対象：宣言・認定・表彰企業 3,874社（R7.5月末実数）
- ・調査期間：令和7年6月26日～8月7日
- ・回収数：1,261件（有効回答数 1,115件、有効回答率 28.8%）
- ・調査結果：情報誌（R8.3月発行）に概要掲載、ホームページに報告書掲載

3 勤労者等の文化・スポーツ・レクリエーション活動の推進（公益目的事業）

(1) 兵庫県中央労働センターの管理運営

勤労者等の会議室利用や産業労働関係団体の事務所利用等を通じて、勤労者の福利厚生や教養文化を高めるとともに、煉瓦ギャラリー等を活用した展示などにより、入居団体、利用団体、近隣団体等との交流拠点として運営した。

県と神戸市との協定(令和元年9月)に基づき、大規模災害時に発生する帰宅困難者の一時滞在施設に位置づけられたことから、備蓄品の整備等を行い、神戸市都心部の防災拠点として運営した。

オンライン予約システムの導入やインターネット環境の整備を行い、利用者が快適に利用できる空間を提供することを目指した運営を行った。

<施設概要>

- ・延床面積 7,260 m²
- ・施設内容 大ホール(320人)、小ホール(150人)、視聴覚室(50人)、会議室7、駐車場 等
貸事務所使用分：18団体(1,263 m²)



<重点業務取組>

- ① 関係団体等への積極的な働きかけによる利用率・利用料金収入の向上
- ② 関係団体・地域団体との関係構築を通じた社会貢献活動の推進
- ③ 安全・安心な利用のための4Sの徹底と設備管理の推進
- ④ ウェブサイト等を活用した手続きのデジタル化と積極的な情報発信
- ⑤ 会議室の多目的活用促進のためのネットワーク環境や新たな備品の整備

<施設利用実績>

利用件数・人数・率ともに前年度を上回り、コロナ禍前の令和元年度も超えている。

年 度	R 元	R4	R5	R6	R7	R8 目標
利用件数 (前年度比：%)	4,962 (93.3)	4,887 (123.5)	5,337 (109.2)	5,509 (103.2)	5,983 (108.6)	5,400
利用人数 (前年度比：%)	341,720 (92.3)	325,760 (126.5)	346,280 (106.2)	365,200 (105.4)	396,400 (108.5)	370,000
利用率(%)	47.6	46.9	51.1	52.9	57.3	52.0

<主な利用促進事業の実施実績>

① 煉瓦ギャラリー等を活用した展示

館内1階ロビーから2階へ続く煉瓦色の壁面を県民の幅広い層の活動成果を展示する場として提供し、来館者に披露した(R7年度12回計画、11回実施)



主な展示	内 容	来場者数
くんじろう展と絵手紙教室展	くんじろうさんの作品と生徒さんの作品を展示	9,644
心を届ける たんば絵てがみ コンクール作品展	家族や友人、親しい人の顔を思い浮かべながら、暮らしや風景を描いた絵手紙	3,654
S L 写真展	汽車とともに～一緒に駆けた40年	7,517

② 自習室開放

夜間の時間帯において予約のない会議室1室を自習室として開放し、地域に貢献するとともに利用率向上につなげている。(R7年度 11回開放)

③ 勤労者のためのワンコインカレッジの開催

勤労者の関心が高いテーマについて、仕事帰り等に気軽に参加できる講座を開催した。(参加料：各回500円)

日 程	11月11日	11月18日	11月25日
内 容	マインドフルネス瞑想初級①	マインドフルネス瞑想初級②	フラダンス入門講座
参加人数	16人	15人	11人

④ テレワーク勤労者支援事業

中央労働センター1階にコワーキングスペース（3ブース）を設置し、テレワーク勤労者に落ち着いて就業できる場を提供した。(R7年度 22人 延べ66回利用)



(2) 姫路労働会館の管理運営

播磨地域を中心とした勤労者や労使関係団体等の会合、研修、文化活動などのために会議室を提供し、勤労者等の福祉向上に資する活動を支援するとともに、お仕事川柳コンクールの実施、ギャラリー展の開催などにより、交流拠点として運営した。

また、勤労者を対象とした気軽に参加できる研修会としてワンコインカレッジを開催。新たな空間を提供することを目指した運営を行った。

<施設概要>

- ・延床面積 2,416㎡
- ・施設内容 多目的ホール(270人)、会議室5、サークル室2、視聴覚室、和室、トレーニング室、駐車場 等



<重点業務取組>

- ① 労使団体への働きかけ強化、新規利用先の発掘・誘致による利用率向上
- ② 施設の特徴を生かした新たな利用方法の提案による利用の促進
- ③ ニーズを踏まえた備品整備によるサービスの向上及び多様な利用形態への対応
- ④ 施設設備の日常点検と老朽化への計画的な対応(予防保全)による安全安心の確保
- ⑤ SNSの活用など新たな情報発信による施設認知度の向上

<施設利用実績>

年度当初から順調に推移。リピートや新規の利用者が増加し、利用件数・人数・率ともに前年度を上回った。

年 度	R 元	R4	R5	R6	R7	R8 目標
利用件数 (前年度比：%)	6,065 (96.8)	5,655 (111.8)	5,617 (99.3)	5,470 (97.4)	5,548 (101.4)	6,200
利用人数 (前年度比：%)	289,376 (99.5)	281,266 (110.8)	269,062 (95.7)	259,211 (96.3)	262,762 (101.4)	289,000
利用率(%)	52.8	49.4	48.8	47.8	48.4	54.0

<主な利用促進事業の実施実績>

① 第 21 回お仕事川柳コンクールの実施

県、労使団体等との共催で、勤労者をはじめとする県民から「仕事」「ワークライフバランス」を題材とした川柳を募り、応募作品を館内に展示するとともに、優れた作品を表彰した(応募者数 201 人、応募句数 721 句)。

〔主な受賞作品〕

兵庫県知事賞	再雇用殻を破って生きていく
姫路市長賞	積年の努力の汗が染みる靴
兵庫県勤労福祉協会理事長賞	培った技ロボットに伝授する
兵庫県中播磨県民センター長賞	自己評価真ん中辺の少し上
連合兵庫西部地域協議会議長賞	天職と気付かぬままに定年日
姫路経営者協会会長賞	頼られる喜び胸に再雇用

② ギャラリー展の開催

広く県民から趣味等の作品を募集して、館内 1 階ロビースペースで展示し、来館者に憩いの空間を提供した(7 年度 3 団体)。



主な展示	内 容	来場者数
西明石天文同好会 天体写真展	肉眼では見られない夜空の拡大写真や、風景と星のコラボレーション写真など会員の皆さんが撮影した天体写真を展示	10,100
笑顔文字ひめじ教室作品展	毎月開催されている笑顔文字教室の参加が作成した文字と笑顔のコラボ作品を展示	14,400

③ 勤労者のためのワンコインカレッジの開催

勤労者の関心が高いテーマについて、仕事帰り等に気軽に参加できる講座を開催した(令和 8 年 1/23、1/30、2/6。参加人数：延べ 25 名、参加費 500 円)。

(3) 但馬ドームの管理運営

第5期指定管理（令和5～9年度）の3年目として、全但バス等共同事業体が一丸となって但馬ドームの管理運営に取り組んだ。

利用促進イベント等の事業は新たな体験・参加型のイベントだけでなく、障害者も参加できるユニバーサルに対応した事業など計画どおり実施でき、施設全体の利用者満足度は97%と高い評価を得ている。

“但馬ドームオータムフェスタ&ロハスパーク豊岡”を開催し、地元企業やロハスパークの来店により地域間交流の推進や地域の活性化に寄与することができた。

また、グラウンド・ゴルフ、障害者野球、ソフトボールなどのスポーツイベントを計画的に開催するとともに、ドームで整備した森林において、親子を対象としたイベントを開催し、森を身近に感じる遊びのフィールドとして活用した。

<施設概要>

① ドーム棟（県からの受託施設、延床面積:21,813㎡）

- ・多目的グラウンド(14,000㎡)、開閉式屋根、観客席(1,196席)、トレーニング室、選手控室、多目的室 等

② 神鍋野外スポーツ公園（豊岡市からの受託施設）

- ・センター棟(延床面積:1,140㎡)：
事務室、休憩室、会議室、ロッカー室 等
- ・野外施設：
芝生グラウンド(14,130㎡)、環境発見遊具、芝生広場、駐車場 等



<重点業務取組>

- ① 地域との連携強化や民間活力を活かした地域間交流の促進による集客の拡大
- ② 森林やジオパークを活用したアクティビティ及び分散型・体験型のツーリズム等、ウィズコロナ時代に対応する新たな魅力の創出
- ③ スポーツ・レクリエーションの裾野の拡大
- ④ SNS等を活用した効果的な情報提供、広報・PR活動の強化
- ⑤ 安全・安心で快適な施設の提供とSDGsへの貢献

<施設利用状況>

新たなイベントやスポーツ大会の開催などにより利用件数・人数・利用率は令和6年度を上回ったが、グラウンド・ゴルフ大会、学校行事等においては、コロナ禍前と比較して利用団体数・人数が漸減している傾向にある。

年 度	R元	R3	R4	R5	R6	R7	R7 目標
利用件数 (前年度比：%)	5,693 (92.0)	4,185 (105.1)	1,933 (46.2)	5,110 (264.4)	5,589 (109.4)	5,660 (101.3)	5,500
利用人数 (前年度比：%)	355,790 (94.4)	91,667 (118.9)	63,096 (68.8)	160,780 (254.8)	218,058 (135.6)	225,490 (103.4)	220,000
利用率 (%)	96.5	74.4	—	78.3	84.8	85.2	85.0

※ R4年度、ドーム棟グラウンドは大規模修繕工事により5～6月を除き利用休止

<主な事業の実施状況>

① 夏休みわくわくキッズアドベンチャー（7/27、8/3）

全但バス（株）との連携事業として、親子を対象にガイド付き神鍋溶岩流散策とドーム森林エリアで火おこし体験とニジマス焼き体験、モルック大会を実施
（参加者：39人）



② サマーミュージアム「親子ドローン操縦体験会」(8/24、31)

（公財）新産業創造研究機構後援、北兵庫ドローンスクール協力のもと、夏休みに親子を対象に、公認インストラクターによる講座と操縦体験会を実施
（参加者：53組 106人）



③ ドームdeアウトドアアクティビティ（9/6～7）

ドーム棟グラウンドにて、誰でも気軽に参加できるファミリー・初心者向けの1泊2日のキャンプイベントを開催。また、芝生グラウンドでは、丸太切りや火起こし等の体験をはじめ、ツリーイング体験などキャンプイベント参加者以外でも参加可能な体験型アウトドアイベントを開催。（参加者：キャンプイベント30組127人、体験型アウトドアイベント1,100人）



④ 但馬ドームオータムフェスタ&ロハスパーク豊岡(10/18～19)

ロハスパーク実行委員会と共催し、環境への取組を推進する地元企業やロハスパークの出店などにより地域間交流を推進（来場者 25,000人）



⑤ 第27回全日本身体障害者野球選手権大会（11/1～2）

身体障害者野球の頂点を目指し、全国7ブロック代表7チームによる全国大会を開催（参加者・来場者 2,000人）
《共催：NPO法人日本身体障害者野球連盟》



⑥ スポーツクリニック

（ア）ソフトテニスクリニック～YONEXと部活動～（1/17～18）

ヨネックス所属プレーヤーを講師として、中・高生を対象としたソフトテニス教室を開催（参加者 220人）



(イ)ソフトボールクリニック (1/31～2/1)

園田学園大学のソフトボール部の監督・部員を講師として、幼児～小学生低学年の「ボールあそび教室」と中・高生を対象に「走・攻・守 徹底解剖」としてソフトボールの基本を学ぶ講座を開催（参加者 133人）



⑦ グラウンド・ゴルフ推進事業

(ア)但馬ドームグラウンド・ゴルフクラブ

愛好家をはじめ、誰もが気軽に参加可能な但馬ドームオリジナルのグラウンド・ゴルフ大会を開催

- ・ 練習会（通年／27回 4,009人）
- ・ 第36回交流大会 〈予選〉 427人 〈決勝〉 279人
- ・ 第37回交流大会 〈予選〉 434人 〈決勝〉 284人



(イ)第16回但馬ドームCUPグラウンド・ゴルフ大会 (3/14)

日本グラウンド・ゴルフ協会公認大会として、県内外からグラウンド・ゴルフ愛好家が集結する但馬を代表する大会を開催（参加者 407人）

⑧ 森林等の自然の活用

(ア)ドームの森をつくろう！～森林整備体験と活用を学ぶ～ （森林整備7回、森林活用3回）

豊岡市人と森林のつながり推進協議会やボランティアの協力を得て、「安全に、楽しく、美しく、みんなで森林整備」をモットーに森林整備体験を実施。

また、親子を対象とした「森さんぽ」や「森がひらく日」などのイベントでは森を身近に感じる遊びのフィールドとして活用。（森林整備48人、森林活用70人）



(イ)ドームに山野草園をつくろう！

～貴重な神鍋の野草を学んで守る～（4回）

地元山野草保存会や一般ボランティアの協力を得て、山野草の保存を目指すイベントを実施。（41人）



(4) 憩の宿戦略的パートナーシップ事業の推進

憩の宿との戦略的パートナーシップに基づき、憩の宿におけるブランディング、マーケティング、マネジメント等を公益的観点から再構築し、憩の宿においてワーケーションをサポートするサービスを提供するなど、幅広く勤労者のCSR活動の活性化を図った。

4 勤労者の福利厚生の実施

(1) 兵庫県中小企業従業員共済事業（愛称：ひょうごファミリーパック）

中小企業従業員の福祉向上と企業の安定した労働力の確保・定着を図るため、県内中小企業に勤務する従業員に対し、企業単独では実施困難な共済事業を展開した。

全体の加入事業所数、被共済者(会員)数については、令和4年度末に共済制度を廃止した西宮市・川西市からの移行加入の促進に努めたこともあり、着実に増加したものの目標数には達していない。福利厚生提携店数は、近年減少傾向にある。一方、福利厚生件数、給付件数ともに被共済者数の増加に比例して増加した。

< 重点業務取組 >

- ① 新規会員獲得に向けた加入促進嘱託員による重点加入推進活動の展開
- ② 増加する会員ニーズに応じた福利厚生・給付等サービスの充実
- ③ 非正規従業員の加入促進と従業員の健康増進
- ④ 会員サービスのデジタル化の推進

< 加入実績(各年度末時点) >

令和4年度末制度廃止の西宮市・川西市からの移行加入需要は一段落したものの、加入事業所数、被共済者数ともに着実に増加している。

年 度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 7 目標
加入事業所数 (前年度比:%)	2,577 (109.8)	2,807 (108.9)	2,882 (102.7)	2,962 (102.8)	3,001 (101.3)	3,100
被共済者(会員)数 (前年度比:%)	34,257 (108.0)	38,135 (111.3)	42,497 (111.4)	43,773 (103.0)	44,990 (102.8)	47,000

< 主な事業の実施実績 >

① 新規会員獲得に向けた加入推進活動の展開

新規会員獲得に向けて、ホームページ等でPRするとともに、加入促進嘱託員2名を中心に、新規加入企業の掘り起こしに向けて商工会議所・商工会等経済団体や金融機関と連携した加入推進活動を展開した。

② 非正規雇用労働者の処遇改善と加入促進

非正規従業員に対し会費の半額を最長3年間助成する県補助事業のメリット等を広くPRし、加入事業所のパート従業員など非正規雇用労働者の加入促進を図った。

年 度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 7 目標
非正規新規加入者数 (前年度比:%)	1,062 (90.1)	1,532 (144.3)	1,705 (111.3)	1,115 (65.4)	1,468 (131.7)	1,500

③ 中小企業従業員健康増進支援事業(県補助事業)の活用による健康増進意欲の向上

人間ドック・脳ドック及びインフルエンザ予防接種に対する支援事業を積極的にPRし、会員の健康増進意欲を高めるとともに新規及び追加会員の加入促進に努めた。

年 度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 7目標
人間ドック・脳ドック利用件数 (前年度比:%)	1,049 (111.1)	1,201 (114.5)	1,470 (122.4)	1,635 (117.8)	1,780 (108.9)	1,800
インフルエンザ予防接種利用件数 (前年度比:%)	8,350 (72.2)	13,539 (162.1)	13,044 (96.3)	13,572 (104.0)	14,391 (106.0)	16,000

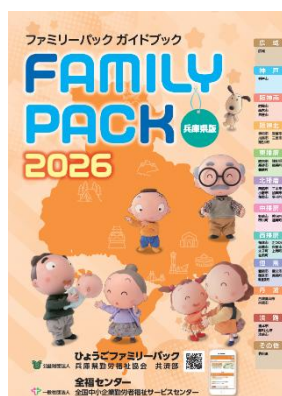
④ 福利厚生事業

宿泊・レジャー施設や飲食店等の提携店を利用する際の会員割引や利用補助をはじめ、暮らしに役立つ多様なサービスを、会員ニーズを踏まえながら提供した。

会員が身近に且つ気軽に利用できる施設や店舗を全県的に確保するため、地域提携店等の開拓を図るものの、小規模事業者の廃業等で微減傾向にあるため、ホームページやSNS、会報誌「ファミリーパックニュース」(年4回発行)等を活用して、会員への積極的な情報提供に努めた。

年 度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
福利厚生利用件数 (前年度比:%)	64,959 (100.4)	84,117 (129.5)	99,398 (118.2)	107,114 (107.8)	117,914 (110.1)
内 訳	利用券(宿泊、飲食)	50,096	59,401	65,880	71,968
	チケット斡旋(映画等)	5,464	9,976	19,004	19,939
	健康増進補助(人間ドック等)	9,399	14,740	14,514	15,207

年 度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 7目標
福利厚生提携店数 (前年度比:%)	2,372 (86.6)	2,282 (96.2)	2,264 (99.2)	2,171 (95.9)	2,155 (99.3)	2,400



⑤ 給付事業

結婚、入学等の祝金、見舞金・弔慰金、勤続報奨金、退職餞別金など、会員及びその家族のライフステージに応じた12種類の給付金を支給(1件あたり3,000～70,000円)した。

きめ細かなサービスとして、会員ごとの給付該当一覧表を年4回発行した。

年 度		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 7目標
給付金支給件数 (前年度比:%)		10,243 (113.3)	10,893 (106.3)	11,923 (109.5)	12,480 (104.7)	12,844 (102.9)	13,000
内 訳	祝金(結婚、入学等)	3,148	3,419	3,606	3,633	3,820	
	見舞金・弔慰金	1,085	1,221	1,379	1,521	1,560	
	勤続報奨金	4,233	4,621	5,282	5,167	5,129	
	退職餞別金等	1,777	1,632	1,656	2,159	2,335	

⑥ 融資斡旋事業

県内に本支店を置く14の指定金融機関と連携し、日常の急な生活費や自動車購入費、住宅資金などに利用しやすい3種類の低利融資(いずれも年1.65%固定金利)の斡旋を行った。

年 度		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
融資件数 (前年度比:%)		5 (33.3)	6 (120.0)	9 (150.0)	4 (44.4)	5 (125.0)
内 訳	生活資金(融資限度 50 万円)	1	1	5	2	1
	特別生活資金(融資限度 200 万円)	4	5	3	2	3
	住宅資金(融資限度 400 万円)	0	0	1	0	1

⑦ 離職者生活安定資金融資損失補償事業

中小企業勤労者の雇用の安定を図るため、兵庫県が近畿労働金庫と協調して実施する「離職者生活安定資金融資事業」の損失補償業務(保証機関の日本労働者信用基金協会に対し代位弁済額の5%を補償)を行った。

なお、申込の減少が著しいことから令和7年度から新規の受付を停止している。

(件数、〔 〕内：金額(千円))

年 度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	累計(H21.2～)
保証預かり	1〔5〕	0〔0〕	0〔0〕	0〔0〕	-〔-〕	120〔527〕
損失補償	0〔0〕	0〔0〕	0〔0〕	1〔7〕	-〔-〕	28〔444〕
回収金	0〔0〕	0〔0〕	0〔0〕	0〔0〕	-〔-〕	10〔117〕

⑧ 収入確保策の実施

長期的な収入の安定を図るため、利用券事務手数料など各種手数料や広告宣伝収入等により、収入確保を図った。

(単位：千円)

年 度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R7 目標
事務手数料等収入額	4,861	5,337	5,999	6,965	6,605	6,000

⑨ 業務の簡素化を目指した新共済管理システム開発の実施

従前の共済管理システムの保守サポート終了と多様化・複雑化する会員サービスに対応しつつ事務処理の効率化を図るため、令和3年度から開発を進めてきた新共済管理システムについて令和6年5月に運用を開始した。加えて業務改善の一環としてチケット等抽選システムを導入した。

(2) 勤労者福祉支援事業の推進

県内の勤労者及びその家族の豊かな生活の実現を図るため、勤労者福祉基金を運用して勤労者に対する融資を行ったほか、県域で勤労者への福祉活動を行う団体の活動に対して助成した。

<実施実績>

① 勤労者教育支援資金融資事業（兵庫の学びと教育のローン）

勤労者の能力開発、その家族の教育に必要な資金について、近畿労働金庫と協調(預託額 55,184 千円)して、長期かつ低利な条件(借入限度 200 万円以内、7 年以内返済。年率 1.2%固定金利)で貸し付けた。

同事業の利用促進のために、別途必要となる保証料(年 0.7～1.2%)の 1/2 助成を実施した。



	R3	R4	R5	R6	R7	R7 目標
融資実行件数	25	25	19	17	12	40
勤労者スキルアップ支援資金	1	2	2	1	0	8
子弟教育支援資金	24	23	17	16	12	32
保証料助成件数	16	13	13	11	12	40

② 勤労者福祉活動支援事業

勤労者福祉基金の収益等を活用して、全県的に勤労者福祉活動を展開する団体の活動に対し助成した。

・助成対象：兵庫県労働者福祉協議会

〔 同協議会が県内 12 地区で行う文化・スポーツ事業、教育研修事業、交流事業 等 〕

・助成金額：200 万円

5 労働・勤労者福祉の情報提供（公益目的事業）

(1) ひょうご労働図書館の運営

S N S の活用などにより、開かれた図書館としての機能強化を図るとともに、利用者ニーズに合わせたサービス向上を進めた。また、勤労者の就業環境の変化やニーズを捉えた労働問題講演会を開催した。

<重点業務取組>

- ① 中央労働センターとの一体的運営による開かれた図書館としての機能強化
- ② 関係機関との連携による図書等の充実と利用者ニーズに合わせたサービス向上
- ③ 勤労者の就業環境の変化・ニーズを捉えた労働問題講演会の開催

<施設利用実績>

図書館利用者数、図書貸出人数、図書貸出冊数については、令和4年度以降コロナ禍前の水準まで回復基調であったが、令和7年2月のリニューアル後のスペース縮小による蔵書減、購入図書減、土曜日開館日数の減が影響し、前年度を下回った。

年度	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R7目標
図書館利用者数（人）	8,141	5,402	6,508	8,987	10,194	7,856	5,916	6,000
図書貸出人数（人）	1,863	1,708	2,069	2,624	2,863	2,321	1,307	1,800
図書貸出冊数（冊）	4,751	4,725	5,884	6,905	7,792	6,364	3,541	5,000

<主な事業の実施実績>

① 中央労働センターとの一体的運営による開かれた図書館としての機能強化

中央労働センターロビーを活用して、小泉八雲に関する展示コーナーを図書館内と連携して運営したほか、中央労働センター運営委員会の意見や提言を踏まえて、図書館活動を展開した。

また、S N S を活用して、新着図書や古本リサイクルフェア、ランキング等の図書館情報を積極的に発信した。

② 関係機関との連携による図書等の充実と利用者ニーズに合わせたサービス向上

関係機関の協力を得て労働専門図書等を一層充実するとともに、利用者のリクエストを踏まえて話題の一般図書等の購入・排架を進めた。

また、ワークライフ・バランス関連図書コーナーを充実するとともに、「ビジネス書グランプリ受賞本」など、利用者の関心の高いテーマによる特集コーナーを設置しているほか、除籍図書を利用者に無償譲渡する古本リサイクル・フェアを開催するなど、利用者ニーズに合わせたサービス向上を推進した。

③ 勤労者の就業環境の変化・ニーズを捉えた労働問題講演会の開催



就業環境の変化やニーズを捉え、勤労者をはじめ広く県民一般を対象として、雇用労働問題をテーマとした講演会や、勤労者・県民の自己啓発をテーマとした実務講演会を、オンラインを含め1回開催した。

開催日／会場	テーマ／講師	参加者
10月27日 (会場+オンライン)	「AI時代のリスキリング」 労働政策研究・研修機構 副統括研究員 藤本 真 氏	63人

6 その他収益事業の実施

(1) 駐車場の管理運営

県から土地を借り受け、駐車場を設置し管理運営を行った。

<施設利用実績>

諏訪山駐車場は、年間を通じて全区画を月極契約した。

(延べ利用台数)

年 度	R3	R4	R5	R6	R7
諏訪山駐車場 (月極18台)	215	209	212	216	216

(2) 自動販売機の設置

県から指定管理を受けている中央労働センター、姫路労働会館及び但馬ドームにおいて、施設利用者の利便性確保のため、施設内・屋外に自動販売機を17台設置し、管理を行った。

7 法人の運営体制の充実を図るための取組

事業運営における法令順守と財団運営の透明性確保を図るため、理事会及び評議員会の適切な運営のもと、適正かつ効果的な事業の実施に努めた。

- ① 役員(理事、監事)、評議員については、業務執行理事以外は、産業界、労働界、学識経験者等外部有識者で構成し、意見を聞きながら事業を実施した。
- ② 適正な会計業務を行うため、監事による監査に加え、適宜、会計事務所による検査、指導を受けた。また、資金運用については、資金運用委員会を設置し、資金運用方針に基づき安全性と収益性を考慮した運用を行った。
- ③ 財団運営の透明性の確保を図るため、ホームページにおいて事業報告書及び財務諸表等を公開した。

R7年度の開催状況

理事会	評議員会	監事監査
第43回 R7年4月(書面開催)	第28回 R7年6月	R7年6月
第44回 6月	第29回 R8年3月	
第45回 6月(書面開催)		
第46回 R8年3月		